

## 福島第一原発事故は、いまだ収束していません

溶け落ちた核燃料の取り出しのめどもまだ立たず、東電は増え続ける汚染冷却水の保管容量は 2022 年の夏ごろには限界に達するとし、海洋放出が検討されています。除染土から最長 10 万年人類から隔絶しなければならない高レベル放射性廃棄物まで最終保管場所はまったく決まっています。

避難指示を外された住民は支援打ち切りで困難を押し付けられたままです。

要するに事故は収束どころか手詰まりになっているのです。

総額 1 兆円も国費をかけて結局何の成果もあげられなかった高速増殖原子炉もんじゅの後継として、フランスと合同で研究開発するはずだった高速炉 ASTRID（アストリッド）について、フランスは経済的に成り立たないとして 8 月に計画中止を決めました。日本も国民に高額を負担を強いる核燃料サイクル政策を今こそ放棄すべきです。

ところが政府は、今年度予算にも小型原子炉の開発支援のための予算を新たに計上し、2030 年のエネルギー基本計画でも依然電力構成比の 20~22% を原子力でまかなう計画で、再生可能エネルギーについては同 22~24% に設定しています。世界全体の電源構成では 2016 年の実績で、すでに再生可能エネルギーは 32.2% となっているおり、2040 年の予想値は 66% になっているのに・・・

石炭火力は温暖化を進め、原発は今や高コストの上に核のごみを蓄積させます。地球が減びないうちに再生可能エネルギーに後ろ向きな政府に、国民の側から「NO!」を突き付けましょう！

原自連（原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟）の基本法案を国会で審議することを強く要求していきましょう！



Bye-Bye 原発/国分寺の会

日本は原発と石炭火力にこだわり、世界の潮流に完全に乗り遅れています。世界の潮流は再生エネルギー発電の推進です！

